



CONTENTS

2008年度総会のお知らせ/「すごいぞ!」インド/世界の中のインド/インドで話そう/舌で感じるインド /第一回勉強会/ナマステインド/インドまとめ/バングラデシュサイクロン被害/舌で感じるインド



ハリヤーナ州のある村の子どもたち (2006.2)

2008 年度総会のお知らせ

サマンバヤの会規約に基づき 2008 年度総会を下記の通り行います。総会では 2007 年度事業報告、決算報告、2008 年度事業計画等を検討します。来年度人事や組織体制の見直し、ホームページの検討なども行います。なお、里親会員、賛助会員、ボランティア会員の方で、出席できない方は、規約に基づき総会決議に対する委任状の提出をよろしくお願いたします。郵送・FAX・e-mail にて受け付けます。

日時 2008 年 1 月 13 日 (日) 午後 1 時 ~ 5 時 (今回は宿泊できません)

場所 サマンバヤの会本部、寺田宅。最寄り駅は JR 外房線茂原駅。茂原駅より送迎します。

送迎 準備の都合上、出席していただける方は事前に連絡をお願いします。

2008 年度上期会費納入期限は 12 月 25 日です

2007 年も年末を迎え、恒例の 2008 年度会費納入期限が近づいてまいりました。サマンバヤ・アシュラム支援と現在、行っているマイクロクレジット事業への活動費になりますので、上期納入の里親会員の方、そして賛助会員の方、納入をよろしくお願ひします。2008 年 1 月 13 日(日)に予定している総会で 2008 年度の活動資金の使い方を決めます。ぜひ早めのご入金をお願い致します。2008 年度の振込先は裏表紙をご覧ください。

「スゴイぞ！」インディア

寺田文男 (TERADA Fumio)

インドで出会った「すごい」今回は世界遺産ブダガヤ。2002 年、ブダガヤの主要寺院であるマハボデ寺は世界遺産の指定を受けました。ブダガヤは周辺道路の整備などをして、観光客が一段と増えたようです。日本では世界遺産の指定を受けたとか、暫定リストに載ったとかで、観光客を目当てとするご当地の自治体などが歓迎ムードにつつまれているというか、賛否論争も含めて騒ぎになっているという報道を耳にしますが、ブダガヤの場合、周辺の人たちは世界遺産に指定されたことをどのよう感じているのか、気になるというのは気きになるのですが。

世界遺産とは、いったい何なのか！ちょっと調べてみました。

世界遺産とは、1972 年ユネスコ総会で採択された世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約(世界遺産条約)に基づいて、世界遺産リストに登録されたものをいうのだそ

うです。31 回世界遺産委員会(2007 年)終了時点で条約批准国は 184、遺産数 851 件、地域的にはヨーロッパの登録数が突出しています。(伊、西、中、独、仏につづき墨、英と



工事中の大塔(2006 年 3 月)

ベスト 8 の 26 を数えます。)文化遺産・自然遺産・複合遺産・危機遺産に分類され、ユネスコ(国際連合教育科学文化機関・1942 年に設立された国連の専門機関)のユネスコ遺産センターがとりまとめ最終的に世界遺産委員会が審議の上、正式に登録され、以後保全状況を 6 年ごとに報告し、再審査を受ける必要があるのだそうです。先にも書きましたが、この登録をされるかどうかで一喜一憂する集団があるとか、非公式見解ですが登録数を 1,000 程度にしたいというのですから、登録審査も年々慎重になっていることでしょう。なんだか、オリンピックの開催地を決めたりとかの「騒ぎ」を思い出してしまいます。経済効果に過度の期待をする観光地の価値をあげるためのものでもないし、ましてや飲食店の入り口に星をつけたりしているのとは訳が違うと思うのですが。

世界遺産の始まりをたどると、ナイル川に造られたアスワン・ハイ・ダム(1970 年完成)にあります。完成するとヌビア遺跡が水没するという危機からユネスコが音頭をとり、遺跡内のアブ・シンベル神殿を移築という壮大な事業が行われ、これをきっかけに、開発から歴史的価値のある遺跡、建築物、自然等を国際的な組織運営で守ろうという機運が生まれたのだそうです。この時は、開発と遺産の保護が両立したといえるのでしょう。

「為せば成る、為さねば成らぬ何事も、ナセルはアラブの大統領」当時のエジプトの大統領を讃えた格言！?(うそです。成らぬは人の為さぬなりけり、が格言)。

そんな(どんな?)世界遺産ではありますが、さてブダガヤのマハボデ寺の登録の功罪はどうであったのかという、結論を出すのは尚早としても、仏教の寺院という観点からいえばこんな見方もあるそうです。それは、本来、仏教寺院であるマハボデ寺は仏教徒の管理下に無い状態を、世界遺産に登録をされたことを機に国際社会に訴え取り戻そうという動きに弾みがつく可能性があるということです。1949 年、マハボデ寺は州政府のブダガヤ寺院法で管理委員会を設け管理しているのです

が、委員は仏教徒4名とヒンドゥー教徒4名、管理委員長はヒンドゥー教徒を任命するというものだそうで、そういえば、10年ほど前のこと、サマンバヤ・アシュラムのドワルコ氏は管理委員か管理委員長であったと聞いたことがあります。仏教徒に関しては、おそらくマハボデ寺の管理にたいへん力を注いでいるスリランカの仏教会が主力ではないかと想像できますが、宗教的になんの興味も無いはずのヒンドゥー教徒を管理者に入れなければならないというのは、宗教的観点から言って反感を持つのも無理の無いことです。ここでも観光が優位にたっているのかもしれませんが、さてさて、ここブダガヤには「世界遺産」の前にこんな問題があったんですね。建物は国際組織が守ってくれますが、それぞれの宗教は政治と経済などのいろいろをどうしたら良いと「教えて」くれるのでしょうか。

世界の中のインド～貿易レポート～

佐藤有紀 (SATOH Yuki)

のど元過ぎれば暑さを忘れると言いますが、今年の世界各地の異常気象はまだ記憶に新しいかと思えます。

8月、東欧や南欧では猛暑を記録しましたが、ニューヨークでは10月下旬並みの気温が続いていました。それと同時に米国、欧州、豪州では降雨過多や旱魃が続き、小麦・トウモロコシ収量の大幅な下方修正と史上最高高値を更新しました。食パンの値段も上がりました。原油の高騰もご周知の通りです。輸出入に欠かせないコンテナ船運賃もそれに伴って上がり続けているという状況です。

このような要因から先進国の貿易の需要と荷動きの悪さが目立ち始めている中で、アジアを中心とした発展途上国の経済成長と輸出入の需要が急速に大きくなっています。今や世界の経済は発展途上国が一群として成長を引っ張る状態が実現しつつあり、発展途上国の経済成長が資源需要そして海上輸送需要に大きな影響を与えるようになりました。統計ではアジアから北米へのコンテナ出荷・輸出は2000年のほぼ倍という状況です。

東アジアではまだまだ中国の一人勝ちなのですが、最近ついに絶対数でいうとまだ少ないのですが、成長率の

さらに高いセグメントとして南アジアつまりインド

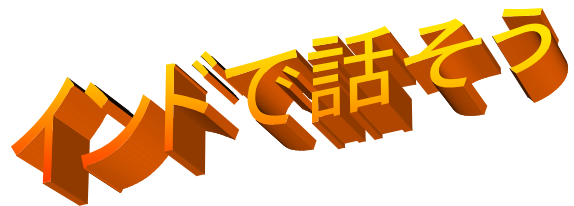
が目立ってきています。だいぶ前からインドが巨大輸出国となるだろうといわれてきましたが、ついに巨象が動き出したという状況です。

インドから例えば米国にモノを輸出する場合、米国の人口は東海岸に多いので東海岸港湾に直接持って行ったほうが塩梅がいいということがあります。シンガポールくらいを分かれ目として、東海岸に行くのであればインドからはスエズ経由で大西洋を渡っていったほうが距離が短くなります。その結果この三年ほど、スエズ経由で米国東海岸へ行くサービスが増えてきていることは確かです。

インドではIT系をはじめとするサービス産業での成長という発展途上国のなかでは珍しいかたちの経済成長が始まりましたが、最近本格的に製造業の基地へとかわりつつあります。

まだ、港湾施設も貧弱でコンテナターミナルも東南アジアと比べると一桁落ちる規模が現実です。ただし、コンテナターミナルを例とする新しく開発する計画が東西両海岸に多数ある状況なのですが、インド特有のゆったりとした時間感覚によってそれが稼動するまでの正確な時間は読みきれませんが、インフラの改善が着実に始まっているといったところです。

8月の安部前首相の訪印にもあったように、貨物鉄道への投資も始まるということで、ごく一部の高等教育を受けた国民の活躍できるIT系だけではなく、一般の国民が恩恵を浴する可能性の高い製造業の発展というものがありそうなので今後も目が離せない状況となってくるそうです。

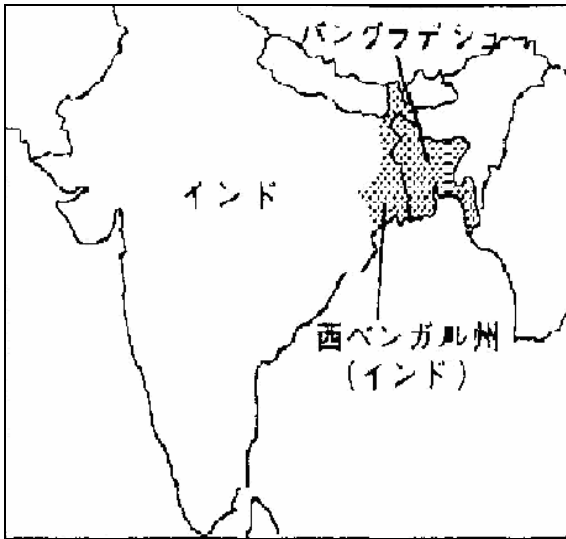


大畑朝義 (OHATA Asayoshi)

NO.4 今回はベンガル語です。

চা আছে?

チャー アチェ？
お茶はありますか？



現在、ベンガル語はインドの西ベンガル州の公用語であると同時に、バングラデシュの国語でもあります。ベンガル語の使用人口は、2億人を超えるといわれていて、世界で5番目に話者が多い言語です。広い地域にまたがって使われているので、ベンガル州とバングラデシュでは発音を初めとして相違点がかなり見られます。

表記にはブラフマー文字の一種であるベンガル文字を用います。ブラフマー文字とはデーヴァナーガリーによく似た字形を持つ文字です。また、東南アジア・東アジアの諸言語と共通の性質ではありますが、数を表すには必ず助数詞を用います。

ベンガルは1つの文化的背景を持った地域ですが、インド・パキスタン分離独立にともないヒンドゥー教徒の多い西ベンガルと、イスラム教徒の多い東ベンガルに分割されました。



最後に、おまけでもう1つベンガル語を紹介します。ベンガル語で美味しいを表す言葉は「モジャ」

です。なので、もし、あなたがベンガル語を話す人がいるレストランに行ったらオーダーの時に「チャー アチェ？」と言ってお茶を頼み、カレーを食べて美味しいときには「モジャ！」と言えたら、もうあなたはベンガリーの仲間入りです！！

(参考文献：世界ことば小事典、ウィキペディア HP)

舌で感じるインド ～日本のインドカレー屋編～

岡崎遼子 (OKAZAKI Ryoko)



小田急線千歳船橋駅から徒歩1～2分のところにある、インド料理「マサラ」に行きました。ここは、よく雑誌に載っていて、私が店の前を通るといつもたくさんの方が入っています。私も何回か食事に行ったことがあります。

今回は、店長おすすめの マサラチキンスペシャルという定番のチキンカレーとナンを頼みました。間もなくすると熱々出来立てのナンとカレーが運ばれてきました。ナンは目の前に置かれた瞬間にバターのいい匂いがしてきました。この店ではカレーの辛さが、「大辛・中辛・甘口」から選ぶことができ、今までは中辛で頼んでいたのですが、中辛は辛くもなく甘くもなく、一般的に日本人が好む辛さになっていると感じていたので今回は思い切って大辛で頼みました。スパイスで作ったカレーは本当にシンプルで、具として入っているのは玉ねぎと鶏肉だけですが、ほのかな玉ねぎの甘さと絶妙なスパイスの効き目が、私の口に速くナンでカレーを運びたい衝動にさせていました。そして、初めて頼んだ大辛はというと、思っていたより辛くて、食べ終わった後に甘いものが欲しくなって ラッシー も頼みました。

ラッシーの種類は、プレーンとマンゴーとブルーベリーの3種類があり、私はマンゴー味を頼みました。出てきたラッシーはプレーンラッシーにマンゴージュースがミックスされていて、マンゴーのオレンジ色とラッシーの白色がきれいなマール模様を描いていました。味は、甘みがあるけど後味がさっぱりしていて美味しっ

たです。値段は、学生の私には少し高くて、マサラチキンスペシャルが900円、ナンが1枚370円、ラッシーが450円でした。それでも、味はとても良く、店の雰囲気も落ち着く感じで、何よりもお店の人(インド人)がとても良い人たちで、話しかけると立ち止まって聞いてくれて、とにかく親切なので少し背伸びをしてでも行きたくなる店でした。

「マサラ」

住所；世田谷区船橋 1-7-3

営業時間：11:30～14:30

17:30～22:00

定休日：火曜日

TEL：03-3427-87

マイクロクレジットについての勉強会準備会

大畑朝義 (OHATA Asayoshi)

12月6日に東京農業大学で知人を招いてマイクロクレジットに関する勉強会の準備会を開きました。東京農業大学の1年生から4年生までの学生8名で、勉強会をテスト的に行ってみました。



今年から、サマンバヤの会で「SEED BANK」というマイクロクレジット方式の融資を始めたことでマイクロクレジットに関する調査の必要性を感じ、自分が調べたことをもとに同じ大学の学生たちと議論してみることにしました。

参考にした書籍は、「入門マイクロファイナンス、フォルダー直子著、ダイヤモンド社」、「グラミン銀行を知っていますか、坪井ひろみ、東洋経済新報社」の2冊です。

マイクロクレジットに関しては、2006年にムハマド・ユヌス教授がノーベル平和賞を受賞したとことで有名です。

ノーベル賞の受賞理由は「底辺からの経済的および社会的発展の創造に対する努力」でした。ユヌス教授が創設した貧困者向けのグラミン銀行は500万人以上の貧

困者に融資をして、バングラデシュの村落における貧困を緩和したというのです。しかも、この活動は20年以上も続いており、お金の返済率は98%を超えて100%に近づきつつあるということでした。貧しい人々が借りたお金をキッチリ返すことができるのはなぜなのか、これは今後の研究の課題です。世界の貧困の現実とマイクロクレジットのシステムには今後も注目していく必要があると感じます。

マイクロクレジットとは、担保となるものや安定的な雇用、検証可能な信用情報を持たず、通常のクレジットを利用するための最低条件にさえ達しない貧困世帯向けの担保を取らないで貸し出す少額の融資のことを言います。現在、世界で約5億人が、約60億ドルのマイクロクレジットの恩恵を受けていると言われています。グラミン銀行の場合、2007年までで利用者の数は700万人を超えました。グラミン銀行が無担保でありながら高い返済率を誇っているのには、「5人の小グループに分ける」という仕組みに理由があるようです。

銀行で融資を受けるには5人グループを作らないといけないのです。そして、5人グループのうち、融資を受けた誰かが返済できなくなると、同じグループのほかのメンバーが融資を受けられなくなるため、連帯して返済について責任をもたなければならないシステムになっているのです。

貧しい人々は機会さえ与えられれば自ら貧困から抜け出す努力をして、借りたお金を返済する能力があるということを、ユヌス教授が見事に証明してみせました。しかし、表面的な結果ではなく、なぜ、そのような能力が発揮できたかについてはもう少し検証してみる必要があるかもしれません。

現在、グラミン方式の貧困層に対する金融サービスはバングラデシュに留まらず、世界的に広がっており、40カ国に広がっていきました。それでも、このサービスが

提供されていない人口は現在 18 億人もいるとされ、約 2,250 億ドルの資金が不足していると試算されています。

マイクロファイナンス業界は 1980 年以降、ダイナミックな変革を成し遂げてきました。慈善・社会福祉の世界で生まれ育ったこの業界は、拡大しながらビジネスの世界に移行していき、現状では、マイクロファイナンスは慈善・社会福祉の世界とビジネスの世界の両方にまたがっています。そして、2004 年の時点で 50 件のマイクロファイナンス投資ファンドが存在するようになったようです。

期待されている最大の資金源は国際市場だと言われています。国際市場を味方につけて、さらに多くの人々に対する融資を考えているようです。しかし、「貸し手が短期の見返りを求めたらマイクロクレジット旋風はバブルに終わるだろう」とグラミン財団のアレックス・カウンツ理事は言います。

投資の対象として、このようなファイナンスを対象とするのにはリスクは大きいだろうと考えられます。また、人口爆発を原因とした貧困に対してどこまでマイクロクレジットが有効であるかは今後注目すべき問題であると言えるでしょう。



勉強会の様子

ナマステインディア 2007 のまとめ

毎年、日比谷公園で行われていた国際協力フェスティバルに出なくなってから 10 年以上がたった。

今回、久しぶりにフェスティバルに参加したのはひとつにインドがテーマであったことが大きい。このようなフェスティバルに参加しても会員の獲得にはつながらないのだが、準備する過程や、そこに向けた勉強会などを行うことでボランティア会員の結束や会としての方向性を議論するいい機会でもある。



ナマステインディアのブースの様子

東京農業大学の学生から提案があり、久しぶりのイベントの参加となった。

かかった経費は 2 万円程度。内訳は参加費が 1 万 3 千円、ほかにボランティアの交通費、昼食代と弁当代くらいだけだった。

場所は代々木公園の広場。多くのインド関係の料理店舗がたくさん出ており、そのほかにインドの民族衣装や民芸品の店舗なども出ており、インド好きには、このようなイベントも楽しいものだったはずだ。ほかに朝から晩までステージで行われる舞踊もふだん、なかなか見ることができないものなので、インドの多様性を知る上でもいい機会となった。

このような中でサマンバヤの会のような NGO はほとんどなく、かえって目につくという効果があった。

サマンバヤの会としては、このようなイベントに参加することをここ数年控えてきたのだが、学生たちからの要望もあり、今後も参加してもよいと考えさせられた。

だが、参加するのなら、会員拡大は期待はしなくてもある程度は外に向けたアピールができるようになる必要があると考えられるので、その点はあらためていきたい。また、せっかく関心を持ってくれた人たちや、参加している他の団体との交流も重要なアピールの場ともなるので、来年度は、少し準備期間を設けてふだんの活動などをお知らせする資料を作成しておくといふと考えられた。

また、ボランティアとして活動してくれる学生たちの意見を聞きながら、彼らが参加する意義や意味を見出せるような機会としていきたい。

来年度も予算としてはほとんどかけられないが、その中でできることを日常の定例会などで考えながら、参加していきたい。

バングラデシュを襲った

サイクロンの被害に関して

11月15日夕方に、バングラデシュを襲ったサイクロンは、死者3,000人以上という大きな被害をもたらしました。被害者はさらに増す可能性もあります。

おそらく復興のためには多くの費用と時間がかかると想像されます。

現在、日本赤十字社やバングラデシュを長年支援しているシャプラニール(市民による海外協力の会)などのホームページで義援金を募集しています。

特に情報に関してはシャプラニールのホームページが継続的に提供していますのでそちらをご覧ください。

シャプラニールは当会副代表の大橋正明が長年かかわっている団体で、現地スタッフとともに復興支援に努めているそうです。また、被災後に日本からも現地に1人飛び、現地駐在員とともに情報交換などをおこなったそうです。

シャプラニールのホームページは以下です。

<http://www.shaplaneer.org/>

トップページにバングラデシュのサイクロン被害に対する支援のコーナーがあります。

日本赤十字社のホームページは以下です。

<http://www.jrc.or.jp/>

赤十字社の活動報告も見ることができます。当会のホームページの「情報源」のコーナーからも日本赤十字社にはリンクがはってありますので、そこからたどっても募金をすることができます。

このような被害のときの海外支援ではなんと言ってもお金が必要です。こちらから物資を送るよりも現地で物資を調達したほうが無駄がなくお金もかかりません。少しのお金でも現地では多くの物資を調達できますし、彼らの復興を支援することにもなります。関心のある方はぜひ、これらのホームページにアクセスしてみてください。私たちも詳しい情報が入手できたらここで紹介していきたいと思えます。

少しでも早いバングラデッシュの復興と、亡くなった多くの方々に対して、心よりのご冥福をお祈りいたします。

このような被害が、地球上から少しでも減る日を祈ってやみません。

舌で感じるインド

大畑朝義 (OHATA Asayoshi)

今回は、インドで食べた中華料理を紹介します。インドには中華料理のお店が多々あります。ある説によると、かつてインドを占領していたイギリス人が中華料理をよく好んでいて、それがインドにも広まったのだそうです。

私はインド滞在3週目にして、インド料理以外の料理をコルカタで食べたのですが、目の前に料理が運ばれてきたときの喜びと叫びはなかったです。それまで、農村でのホームステイとアシュラムでの生活で、本場のインド料理ばかりを口にしていたせい、とてもお腹の調子がよくなく、少しお腹を休めたいと思っていました。そして、コルカタに移動してきたときにチャンスが来ました。餃子のメニューには牛肉と豚肉の2種類あり、イスラム教徒とヒन्दゥー教徒に配慮しているようでした。餃子は無造作に盛り付けられていて、いかにもインドらしかったです。

チャーハンもパサパサしていて日本で食べる中華料理のチャーハンのように美味しかったのですが、ポーク餃子は、中身が野菜なしのほぼ肉で肉汁が出るような感じではなかった。肉まんに近い餃子という感じでした。しかし、インドで食べた懐かしい中華料理はそのときの空腹を満たし、私を満足させてくれた以上の喜びを私にもたらしてくれました。



インドのチャーハンと餃子
わりばしとしょう油が出てくる

サマンバヤの会とは

当会はインド・ビハール州にあるサマンバヤ・アシュラムが行う主にアウトカーストの子どもの教育のために、里親という形で資金援助をする窓口として活動している会です。里親といっても日本に子どもを連れてきて養育するわけではありません。養育費をサマンバヤ・アシュラムへ送金することを意味します。養育費はアシュラムの財政の中に繰り込まれ、その中から子どもたちのための諸費用が使われるという仕組みです。

貧しい家の子どもの教育を寄宿制で始めて30年以上が経った現在でもこの「学校」への大きな期待があります。4～10歳ほどの子どもが数年間、寄宿制で基礎教育を無償で受ける、その費用を外国からの里親による寄付で賄っています。そして、かつてこの学校で教育を受けた「卒業生」たちの中には慢性的貧困者も少なくなく、彼らの生活向上のための手助けができないものかと活動をしています。2002年から2005年、「卒業生」が活動するNGOへの資金援助スモール・グラント。2007年からサマンバヤの会からの資金を「卒業生」たちが委員会を作り手弁当で運営している資金貸し出し組織SEED BANK。サマンバヤの会は、サマンバヤ・アシュラムとその仲間たちへの生活向上のための資金援助、サマンバヤ通信の発行、世界に目を向ける姿勢、を大切にしている会です

サマンバヤ・アシュラムとは

サマンバヤ・アシュラムはガンディー翁の高弟の1人、ビノーバ翁が創設し、その弟子の1人であるドワルコ・スンドラニ氏が中心となり、その運営にあたっています。インドには「アシュラム」という組織があります。アシュラムとはヒンディー語で直訳すると「同等の仕事」となりますが、「精神修養の場」とか、ある種のセンター的役割を担う組織を指したりします。サマンバヤとはヒンディー語で「調和」とか「融合」などを意味します。英語では「harmony」にあたります。つまり、サマンバヤ・アシュラムは「調和のための修養道場」となりますが、インドの、そして地球に住む全ての人類の調和を目指す研修施設と言えるでしょう。サマンバヤ・アシュラムでは、子どもの教育こそが未来のインドの開発のためになるという考えの上に立ち、身分制度の為に抑圧されているハリジャン（不可触民）の地位向上のために、その子弟の教育に重点を置いています。

入会案内

里親会員

サマンバヤ・アシュラムが養育する子どもの資金を援助します。
里親会員に登録されますと、サマンバヤ・アシュラムは養育すべき子どもをサマンバヤ・アシュラムに連れてきて養育を始めます。
5年間はその子どもの養育費を里親会員が保証することとなります。
お支払い方法 5年一括 120,000円
一年ごと 24,000円
半年ごと 12,000円

いずれかの方法でお支払いください。

会費のうち、1年あたり1,4000～1,5000円（120USドル相当）をサマンバヤ・アシュラムに送金し、残りをサマンバヤの会の運営費用に充てます。サマンバヤの会からサマンバヤ通信を送付します。

賛助会員

サマンバヤの会の活動を資金面で支え、応援していただきます。
会費は1口5,000円/年で、サマンバヤの会の運営費用に充てます。
サマンバヤの会からサマンバヤ通信を送付します。

入会方法

入会のきっかけ、経緯、電話番号、さしつかえなければ職業、Miss,Mr,Mrs,Msを記入して入会申し込み書として本部宛に郵送またはFAXしてください。
会費を郵便振替または現金書留にて送金してください。
入会の確認がされたことを通知します。
会員証は発行していません。

継続の場合

会員として継続される場合
会費を郵便振替または現金書留にて送金してください。
入会の確認がされたことを通知します。

退会

会を退会する場合、速やかに文章で（郵送またはFAX）お送りください。但し、里親会員で会費未納分については請求する場合があります。

郵便振替口座 番号 00260-3-15712

名称 サマンバヤの会 宛

編集後記

こたつでみかんの季節がきましたね。近年では、牛乳やお米の消費量が低下しているのが問題となっていますが、みかんも同様のようです。私はこういった日本の現状を考えて、今日の晩ごはんにはこたつに入ってみかんと牛乳とご飯を食べることにします。 O.A.

発行：2007/12/8（隔月第二土曜日）
発行人：サマンバヤの会
本部：〒299-4423 千葉県長生郡睦沢大上 3615 - 3
TEL-FAX：0475 - 40 - 9795
東京事務所：〒113-0033 東京都文京区本郷 5 - 1 - 16
NP- ビル 5F 東大教育研究所内
TEL：03-3815-3035 FAX：03-3818-1219